

高田教区宗親鸞聖人
七百五十回御遠忌テーマ・
教区教化テーマ

高田教区報

響流

第
129
号

発行所
上越市寺町2丁目24-4
真宗大谷派 高田教務所
編集 響流編集委員会
発行 森田成美
印刷 サクラ印刷(株)

私はどこで生きているのか
～たずねよう 真宗の教えに～



「キッズふくしまに思う」

キッズふくしま実行委員長 第四組養性寺 内山真明

今まで日本は色々なケースで放射能の脅威にさらされてきた。二発の原爆で、第五福竜丸で、東海村の原発事故で、度々そんなことを目にしてきたはずなのに、僕らはその出来事を一過性の出来事として見て見ぬフリをして「使い方の問題だ」とか「しっかりと管理されていれば問題ない」とか「原発安全神話」に身を任せ何も対処すること無くのうのうと暮らす毎日を送ってきた。

3. 11の震災が元で壊れてしまった福島第一原子力発電所、中から出てきたのは「放射能」とよばれる目に見えない、臭いのしない味のないモノ。機械で測り数字でしか見えないものが空に飛び散り線量の高いところ、低いところをつくり、「避難」する人や「自主避難」を余儀なくされた人々が出た。家族や友人と別れた人は少なくはない。

そんな中「キッズふくしま」は始まった。「何をどうしたらいいかわからないんです。」「放射能が心配で子ども達を外で遊ばすことが不安。」「子ども達をよろしくお願いします。」「現地説明会や子ども達の送迎の時にポロっと漏れるその声は、子どもの事を考える親の切実な言葉だと思っている。」

キッズふくしまは五泊六日の「短期保養」で池の平青少年センターとホームステイからなっている。そして僕らの合言葉は「ごめんなさいから始める保養」

先に書いたように過去に放射能関係の負の歴史的经验をしてきたはずの日本で、これからもまだ子ども達に引継ぎを強制的にしなくてはいけない事に対する「ごめんなさい」たくさんの脅威にさらしてしまった事への「ごめんなさい」謝っても謝りきれない僕らのごめんなさいを持って二〇一四年春には六回目の保養を行う。

毎回保養で子ども達から「次回もまた来るね。」「また〇〇さんのところ泊まりたい。」「池の平今度春は何するの?」「友達に声かけてもいい?」バスの中で、降りた駅で一言僕らに伝えていく。

『教行信証』化身土巻末に「前に生まれん者は後を導き、後に生まれん者は前を訪え、連卷無窮にして願わくは休止せざらしめんと欲す。無辺の生死海を尽くさんがためのゆえなり」とある。

「キッズふくしま」から何を聞き、何を伝え、何が伝わり、何が残るか、まだまだ僕らが触れなければならぬ事、気づかなければならない事は絶えない。

ひびき ④3

今回は、女性住職であり、旅館を営まれている、上越市長浜にある第五組西榮寺住職、加茂悦子氏にお話を聞かせていただきました。



◆住職になられた経緯を教えてください。

主人は岐阜の大学で教鞭を執っていました。主人が倒れて亡くなるまで十三年間入退院を繰り返しました。入退院の間、学校への復職も出来ずに、二年前の十二月にとうとう亡くなりました。

亡くなる少し前に教員仲間である坂井龍輔住職(第十三組浄嚴寺)や

周りの方々に後押しされて、三年に一度の真宗学院の申し込みを決意しました。そして三年間、高田別院に通いました。毎週土日、夕方六時から十時です。今は娘に譲りましたけれど、当時直江津で婦人服のお店もやっていました。そんな状況の中で通うのはとても大変でした。十人の生徒の中で、夜眠くなるから一番前の席に座ったのですがやはり眠ってしまいました。

卒業して、今でも卒院生と勉強会をしているのですが、当時教えていただいた先生や卒院生に「加茂さん寝てばかりいたよね。」なんて言われます。それほど当時は眠くて辛かったのです。ですから声明の時間になるとホッとしましてね。なぜかという声を出すと眠気が覚めるから。とても恥ずかしい話ですが、それが現状でした。そんな私でも卒業させていただいたのは諸先生方のおかげだと思います。

◆加茂屋についてお聞かせください。

前々代の頃から臨海学校みたいな感じでやっていました。長野県の方に海に来てもらい、休んでいただく場所を提供したいという当時の住職の思いが始まりました。

当時は荷車にたくさんの食材等を

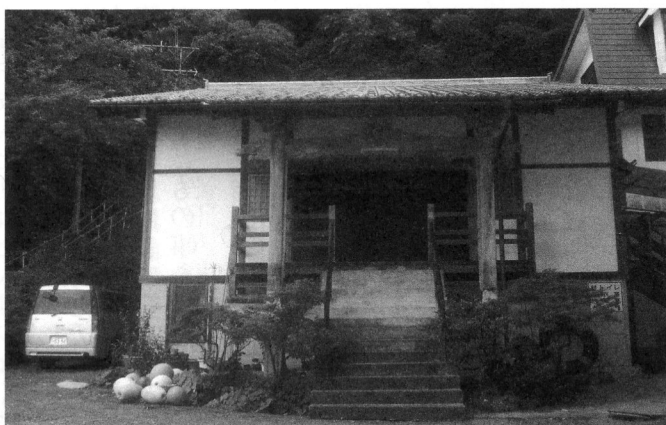
積んで歩いて来られたそうです。そして五日間泊まつていただきました。帰ると次の学校が来てまた五日間泊まる。夏場はその繰り返しです。主に長野市の方が来られていたと聞いております。どのようにして来られたかはわかりませんが、でも決して近くはないですよ。子ども達と先生が歩いてこられるわけですから、途中荷車に子どもを交代で乗せて来た聞いております。

季節旅館(特定の季節に限り営業する施設)の頃は米、野菜、みそを持参して来ていただきました。時が経つにつれ、持ってきていただく食材も少なくなり、私がお嫁いからすぐに民宿(副業として自宅の一部を賃貸して客を泊める施設)にかかりました。そして民宿から旅館(主に宿泊業を専門とする家や建物)になりました。

皆さんは旅館という値段が高いというイメージがあるようです。ですから私たちは旅館の許可は頂いても民宿の料金でやらせてもらっています。

宿泊だけではありません。今でも小布施町の方たちなどは、日帰りでも来られます。その時は、本堂を開放して休んでいただいています。子ども達も本堂で遊んでいると心配な面もありますが、海を見せてあげたい

という気持ちと仏様ものびのびとしている姿を許して下さるだろうという気持ちで開放しています。



本堂

◆お花をやられているとお聞きしましたが、お聞かせください。

お花も教えていますし、お茶も教えています。お花は、遠州流寿会の会長をさせていただいています。高田別院を使わせていただくこともあります。三十二名の会員で、全体を会場とし、三百〜四百人くらいのお客様に見に来ていただいています。別院は広いので、楽しみにされている方も多く、とても喜ばれてい

ます。

◆住職になられて、どんなことに苦
勞されていますか。

住職になって、まだまだ勉強不足
ですし、御経だつて下手ですし、何
をするにも自信がありません。そん
な自信のない私がご門徒の家に御経
を読みに行くわけです。そこでは、
おばあちゃんが後ろで痛い足をさす
りながら聞いているのです。若い人
はおばあちゃんに任せて、違うこと
をしています。そんな光景を垣間見
る度に、私の今やつていることは何
だろうと考えました。私はこのまま
でいいのだろうか？住職になつてい
ながらそう思いました。どうしたら
解決できるかと悩みました。なりふ
り構わずにその人たちに飛び込んで
いったら生活はどうなる？うちなん
か特に小さなお寺です。それまでは
主人が教壇にたつて働いていたから
生活出来ていたのです。

主人も同様に悩んでいました。主
人は親が亡くなってから、ご門徒に
説得され寺を継ぎました。妻の私が
思うに、夫は親が生きているうちに、
「継ぐよ。」と言つてやりたかつたと
後悔していたようです。私は病床の
主人に対し、「子どもが継がなくて
も私はやるよ、私の後姿を見て子ど
も達がどう思うかはわからないけ

ど、私はやるよ。」と約束しました。
私の後姿を見て子ども達が何かを
感じ取ってくれること願つていま
す。でも願つているけれど強制はし
ないです。子どもの人生ですから。
主人が苦しんだように、同じ苦勞を
子ども達に押し付けたくありません
でした。それでも私は悩みました。
どうやって生活していこうかと。ご
門徒と話し合いました。



庫裏兼旅館

は立ちたいと思つていますが、私の
下手な御経では、ご門徒は喜ばない
のではないかと、いつも思つていま
す。
◆これからの目標をお聞かせくださ
い。
私はここを安心して泊まることの
できる宿にしたいと思つています。
そしてここを拠り所の場所にして、
ここで訪れた人達を照らしてい
たいと思つています。ずっとここで
何とか生活しながら、世の中の人が
疲れたらここへおいで！ここで癒さ
れたらまた世の中に出ていきな
さい！そんな宿にできたらと思つて
います。

「自分の手は人のためにある。だ
から手のひらは相手に向いているの
だ。」と聞いたことがあります。で
すから私は、この手で人様を癒して
あげながら、真宗の教えを少しづつ
勉強していつて、みなさんの生活の
中に入り、心のつながりをもりたい
と考えています。そして、この片田
舎の中で私の光が少しでも届けば、
という思いをもっています。
まだ始めたばかりですけど畑もし
ています。無農薬です。少しでも安
心して食べられるものを作ってい
きたいと思つています。それから病気
にならないための食べ物はどうな

のか考えています。医者で言えば治
すのでなく予防学ですよね。病気に
なりにくい体を作る事を考えていま
す。
そして、もっと勉強して親鸞聖人
の教えをきちんと学びながら語れる
日が来るといいなと思つています。



マッサージをしていただきました

お忙しい中、お話を聞かせいた
だきましてありがとうございます。
(筒石 大館)

西榮寺・加茂屋旅館

上越市長浜一三七五番地
☎ 〇二五―五四六―二〇五七

新宗議の抱負

二〇一三年九月十七日に宗議会議員選挙が施行され、高田教区からは、藤戸秀庸氏（二期目、現参務）、宮本亮二氏（新）が選出されました。今回は、新しく議員となられた宮本氏より原稿をお寄せいただきました。

「同朋会運動の願いと課題 —古い宗門体質の克服—」

宮本 亮二



先の「選挙公報」にも記しましたが、同朋会運動を展開した人々に、私は途轍もない情熱と使命感を覚えるのですが、そのエネルギーは、自らを置く真宗大谷派教団に対する大いなる危機感からでありました。『宗門各位に告ぐ』（宗門白書）には、「真宗の教法を伝道する仏法者としての自信を喪失し」「七百年間宗祖聖人の遺徳の上に安逸をむさ

ぼつて来たのである」「われら宗門人は、全身を挙げて深い懺悔をもたねばならない」と、その危機感が述べられています。

そして、「混迷に沈む宗門現下の実情を打破し、生々澁刺たる真宗教団の形成を可能にするものは、この懺悔と求道の実践よりほかはない」と教示され、「真宗の教法を、世界人類の教法として宣布する」ためには、「真宗教学を、純粹に宗祖の御心に還し、簡明にして生命に満ちた、本願念仏の教法を再現しなければならぬ」と確認します。

この真宗大谷派教団の検証を通して、同朋会運動の願いが、真宗同朋会とは、純粹なる信仰運動である。仰運動である。

それは従来単に門徒と称していただけたものが、心から親鸞聖人の教えによって信仰にめぐめ、代々檀家と言っていただけのもので、全生活をあげて本願念仏の正信に立っていただくための運動である。

その時寺がほんとうの寺となり、寺の繁昌、一宗の繁昌となる。

然し単に一寺、一宗の繁栄のためのものでは決してない。それは「人類に捧げる教団」である。世界中の人間の真の幸福を開かんとする運動である。

〔真宗〕一九六二年十二月号と教団の内外に向けて宣言され、教団が近代化への脱皮を果たすことによつて、時代社会に原理と方向を与え得る教団を形成しようとする運動が展開されました。

しかし、その五年後（一九六七年）には難波別院輪番差別事件が起こり、その糾弾会において、真宗大谷派教団の差別体質が厳しく問われました。その二年後（一九六九年）には管長職譲渡の開申事件が起こり、世にいう東本願寺紛争が表面化します。

また、同年には「靖国神社国家護持法案」が国会に提出され、東西本願寺が反対声明を出し、靖国問題が問われてきます。さらにまた同年「中道」誌差別事件が起こります。

次々と問題が起こるなか、同朋会運動十五周年全国大会（一九七七年）において、二葉憲吾氏と高史明氏の「念仏と興れ」の講演のもとに、

- ① 古い宗門体質の克服
- ② 現代社会との接点をもつ
- ③ 真宗門徒としての自覚と実践

が確認されるのですが、しかしながら、その後も同朋会運動を中心的に推進してきた元宗務総長の差別事件（一九八七年）が起こります。

この三つの基本課題は、全国の推進員の代表が結集した「蓮如上人五百回御遠忌テーマのつどい」（一九九七年）において、「どれほど自らのものとして歩んできたか慚愧のほかありません」と再確認されます。

私は、同朋会運動の願いがあつたからこそ、これまで様々な問題に対して、まがりなりにも向き合うことができたのではないかと考えています。

しかし、「危機感がないのが最大の危機だ」ともいわれますが、現代における真宗教団の存立する意義と使命を、親鸞教学の確かめを通して、常に再検証再確認しなければならぬことも考えています。

古い宗門体質の問題でいうならば、まだ本質的な課題になりえていないと考えます。それが「見真」大師号勅額に象徴される問題です。

すでに、「宗門の非本来的状況は、明治維新以降の神権天皇制支配体制を経て今日なお深く残存して、宗門事件をもひき起こしました。しかし、この事件を契機として宗門存立の本義に立ち帰るべく新宗憲

を生み出しました。宗門は、宗門保持のために自ら犯す組織悪を否定媒介として歩みつづける、その運動のなかにだけ、いのちをとりもどすことができるといえましょう」（『真宗再興ねがう宗憲四』）と指摘されています。

しかしながら、その神権天皇制は、今日もなお真宗大谷派教団の中に深く残存していることとなります。

それは私たちの教団の抱える「貴族性」という問題（『身同』八号「真の求道者たらん」広瀬泉）でもありません。貴族的な表現である「寺院」という言葉が今日でも使われています。

「浄土」を喪失し「同朋」という水平な人間関係を見出せない、その象徴が「見真」大師号勅額問題であり、「貴族性」という古い宗門体質を克服できない私たちの本質的課題ではないだろうか。

聞思学場

「研究生意見発表」

「聞思学場を通じて」

第一組 徳正寺 繁原 立

二〇一二年から始まった聞思学場の第一期研修も終盤に差し掛かりました。

私は、大谷大学に入学し、四年間真宗学を学びました。しかし、その四年間は単位を取るためだけの学びとなり、深くまで学ぼうとはしていませんでした。卒業後も自坊の法務を少し手伝うなかで学びに触れるだけでした。二年半前に自坊に帰り、一組の真宗講座や勉強会に参加していく中で、聞思学場の募集は当時の私にとって良い学びの場が提供されたと思いつて参加を決意しました。

私は、自坊に戻る前に二年間愛知県のお寺で法務手伝いをしていました。その時に法事や定例会において法話をする機会がたくさんありました。しかし、話す内容は毎回ほぼ同じことを話していたし、テキストを持っていく時は、そのままテキストの解説を読むだけで、決して法話とは言えないものでした。質問をされた時にはあんな返答をしたこともありません。聞思学場に参加して、真宗や親鸞聖人の生涯を学べば、今まであいまいにしてきた返答が明確になったり、上手い話が出来ると考えていました。しかし、そんな考え方は一回目の講義において間違いであったと気付かされました。

聞思して遅慮することなかれ
（『教行信証』・真宗聖典一五〇頁）

と、親鸞聖人も総序に書かれています。井上円室長の講義でも、「真宗は一字で表すと『聞』となる。『聞』は信心を表している。『思』は自らが考えるを表している。まわりの話を聞き、自らが考える。考える材料は私たちの生活の中にある。」と言われました。そして、聞思学場の願いは知識の量を増やすのではなく、法話をするすべや、材料の活用方法を教わる場であり、自分の立場から離れてしっかりと物事を見つめる事が出来るという姿勢を整えてくれるところにあるのだとお伝え頂きました。

今回のテキストである『宗祖親鸞聖人』の第六章「法難」、第七章「民衆にかえる」を最近の講義で学んだ時に、東北の人たちの姿が頭に浮かびました。二年半前に起きた東日本大震災による被害は、まさに現代における法難ではないかと考えます。更に第七章においては、

善根を積むことはおろか、生きのびるためにはたとえ悪事とされていることでも、あえて行わなければならぬ悲しさをかかえた人々の生活があった。

（『宗祖親鸞聖人』四二頁）
と書かれています。私は、高田教区震災支援有志会で東北の光景や、そこ

に生きる人たちの声を聞いてきました。被災してすぐの時、「避難所から見えたコンビニのトラックをボールでこじ開けて中に入っていた食べ物盗み、避難所の人たちに分け与え食べた。」という話を聞きました。盗んだ人たちは、「泥棒をして申し訳ないが、生きるためには仕方なかった。」と話をしてくれました。私はその時に自分自身を考えさせられました。私ならどうしたか。悪事と分かりながら仕方がないと開き直っていたでしょう。しかし、この事実を正当化してしまつてはいけません。今回のような時に親鸞聖人ならどんな行動を取っていたのでしょうか。民衆と同じ肉食妻帯の一生活者となつて生きていかれた聖人。

ただ念仏して、弥陀にたすけられまいらすべし
（『歎異抄』・真宗聖典六二七頁）

「震災後も毎日お内仏の前で念仏しているけど何も救われぬ。念仏して一体なんだ。そう思いながら毎日していると、以前より自分自身を問うたり見つめ直すようになった。これこそが親鸞聖人が出遇った師法然上人の念仏の教えだと気付かされた。」と話してもらいました。そこには、

若不生者、不取正覺

『仏説無量寿経』上巻・真宗聖典
十八頁

と言われた阿弥陀仏の本願が伝わってききました。

本山御遠忌テーマ「今、いのちがあなたを生きている」を通して私は、いのちとは何なのか？をずっと問うています。「生は偶然、死は必然」といったようにこの世に偶然いのちが誕生し、わが身を生きています。そして、生きるためにたくさんいのちを毎日頂いています。食前、食後の言葉はいのちに感謝をしています。私の前に調理されて出てくるまでに関わったすべてのいのちへの感謝があります。

東北のお寺に「今問う、なんぞ生きん」という言葉があったそうです。この言葉はストレートに心に響きました。そこからより問うようになりました。毎日悩み苦しみながら生活を送っている人たちと出遇い話をする中で、自分の立場から離れて物事を見つめるといふ「聞思」の心に気付かされました。

講義において「念仏者に出遇う」とありましたが、わたしにとっては東北で出遇った人たちのかもしれないかもしれません。講義は残り少なくなりましたが、親鸞聖人の生涯を学ぶ事を通して、確かめていきたいと思えます。

高田別院。 新井別院報恩講

高田別院は、十月十一日から十四日まで、新井別院は十一月一日から四日まで報恩講がそれぞれ勤修されました。十三日から十四日の高田別院報恩講結願法要には、信悟院鍵役が御参修され、帰敬式が執行された。同じく十三日は、得度受式者の集いが行われた。



「得度式を受けて」 得度受式者の集い

第三組西性寺 小四 楠田 琉樹
今年の八月五日、東本願寺で得度式を受けました。声明の勉強をがんばり、はじめて東本願寺へ行きまして。頭をそった時は、ジョリジョリして、マジックテープみたいになり、気持ちいいと思いました。

得度式は、ろうそくの明かりだけの暗い所でおこなわれ、一番えらい人におかみそりをしてもらった時は、何か、とてもうれしい気持ちになりました。ぼくみたいに小学生の人がたくさんいて、心強くなりました。

十月になり、ぼくの家の寺で、しんらんしようにん七五〇回の法要の時と、その後の、高田別院の得度受式者の集いで、黒衣・すみげさを着用し、出仕しました。ねむたかったけれども、がんばってたえて、おきょうを読んだのが、自分にとってはすごいなと思いました。

得度を受けたことで、ぼくはこ



までがんばって来たんだということ力をにして、これからもおきょうが上手になるようにがんばっていきたいと思います。



子ども報恩講

青少年連絡協議会主任 大滝 法円

高田・新井両別院報恩講期間中、本山から鸞恩くんをお迎えし、五回目となる子ども報恩講・大谷保育協会加盟園児による絵画展が行われました。

高田別院では、十月十三日の得度受式者の集いでの勤めに参詣した後、会場を図書・資料室に移動し、始まりました。境内宝ものさがしや、パネルシアター等を子どもといっしょになつて保護者の方たちにも楽しんでいただきました。



新井別院では、十一月三日の稚児行列に参加された子どもたちを対象に、パネルシアターと境内宝ものがしを行いました。

パネルシアターは、内藤としる氏が代表を務める吉川区の「ゆめ風船」の皆さんにご協力をいただきました。中でも、ブラックシアターは部屋を暗くして行うもので、蛍光塗料で彩色された作品を使っていて、暗闇の中に浮かびあがる光景は、子どもだけでなく大人も見入っているようでした。

境内宝ものがしについては、今回はクイズ形式のものを使って境内を探していただきましたが、子どもといっしょになって、というよりはむしろ、大人のほうが一生懸命に

なっているような感じでした。

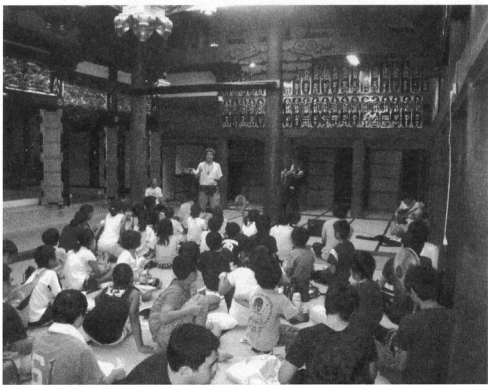


参加者のひろば

青少年キャンプ

去る、八月二十日～二十二日までの二泊三日、上越市大潟区の大潟キャンプ場で、第三十回高田教区青少年キャンプが開催されました。

今回は東部地区（十一、十二、十三組）の主催で、例年のごとく浦川原区の「大杉の里」利用者の方々も参加され、四十六名（スタッフも含めた総勢は九十名の賑やかさでした。生憎、初日には猛烈な雨に見舞われ、午前中の準備と開村式まではその対応に追われていましたが、その



ナイトハイクでお伺いした養性寺（土底浜）にて

後は天候に恵まれテントを張っての野外活動を開始。設営に四苦八苦（スタッフもですが）していましたが、普段と時間の流れ方の違うキャンプ場での生活に少しずつ慣れて歓声と笑い声が夜まで続いていました。メインの二日目は、近隣の県立大潟水と森公園でのネイチャーハイク、ゆつたりの郷での入浴、そして夕食後の第十三組養性寺様へのナイトハイク、本堂をお借りしての集いと夏休み最後の二泊三日を思い思いに楽しんでいました。来年は教区主催で、池の平青少年センター開設四十周年記念を兼ねての開催となりますが、多数の参加をお待ちしております。

（編集委員 矢嶋）

秋安居

「秋安居と私」

第十三組浄厳寺 古川 達雄

十一月五日と六日の二日間、秋安居が中村薫先生の「華厳経に学ぶ」で開催されました。先生のお言葉をお借りすれば、「仏教学を学ぶ者として、親鸞が『浄土真宗は大乗のなかの至極なり（『末燈鈔』・真宗聖典六〇一頁）」と云われたことは、大変な課題を提示している。今我々が『華厳経』を学ぶ意義は、親鸞より見透かされた『華厳経』の真実の意味を究明することです。」と云われました。『華厳経』を学ぶことは浄



土真宗を学ぶことになる。このことから『大無量寿経』との関係は大変に興味深いことです。

安居はお釈迦様の修練の原点であります。ですから私たち僧侶の一人ひとりが浄土真宗の教えを聞き、そして現代の仏道を考える道場だと思えます。真宗人として安居は一年の中で一番大切な研修の場です。「親鸞一人がためなりけり」と云われているように、自分がどのようにこの講話を聴き、そして自分の身に何ができるのかを考える良い機会だと思います。

私はこの秋安居に出席して多くのことを学ばせていただきました。未熟な私ですので、お話を聞いても難解で苦しむところもありましたが、今後も継続して出席したいと考えております。

教学研修会

「『御和讃に学ぶ』に参加して」

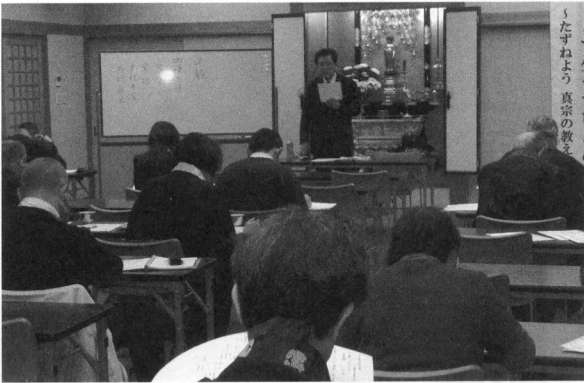
第十三組福浄寺 井上 一英

今回は「諸経意」だった。いつもたくさんさんの資料を提示されて、しかも丁寧に説明される。初日の講義で頭がパンパンに破裂しそうになってしまう。

親鸞聖人はこれらの和讃をつくる

時、たくさんさんの資料を手元において書いていたのだろうか。それでは「意、ころ」とは言わないだろうし、「讃」という形にはならないだろうなあ、などと考えているうちに講義は先に進んでしまう。独りで読んでいなくてもなにか気がつかないことが、講義を受けることで新たな視座となって生まれてくるように思う。ありがたいことだし、楽しいことだ。

毎回なるべく参加しようと思いつながら、きちんと全日程参加すること



ができないういである。しかし和讃の味わいというものが、確実に三木先生の講義から感じられるようになっていく様

だ。毎回京都からわざわざ足を運ばれる、三木先生には大変なご苦労をおかけしていることだろうけれど、この教学研修会はぜひとも続けてほしいものだ。

教区門徒会研修会

「本龍寺参詣と同朋会運動における門徒会の役割」

第八組覺善寺門徒 平野 宏

去る九月十九日～二十日、教区門徒会研修会が開催された。

例年開催されている池の平青少年センターの一泊研修である。

寺院参詣は、第七組板倉、高野の本龍寺(竹田恵示住職・前参務)で、ご住職からは、板倉地区の真宗の歴史、真宗の文化について、また本龍寺の由緒では、甲斐の武田家との関わりについてなど興味深いお話を伺った。

戦国時代の幾多の困難を乗り越え、現代に生きる真宗の教えには、先人の願いと並々ならぬご苦労があったことが改めて痛感させられる。

池の平青少年センターでは、藤原教区駐在教導を講師に、同朋生活運動、真宗同朋会運動の発足、新宗憲の成立などについて研修し、組門徒

会総合研修計画の説明などは、今後の組の活動指針として検討し、企画立案、今後の実践に活かしたい。

同朋会運動と門徒会の役割については、二グループに分かれ討議、座談会をもち、日頃の実践活動についての情報交換、この研修会の成果を組の活動にどう活かしていくか、教区と



組の連携の強化など、今後の課題についても意見交換がなされた。

今回の研修会で初めて五人の方に感話をお願いし、それぞれ日頃の実践活動の感想、生活信条、住職・寺院への要望など話され、有意義な研修であった。

教区声明作法講習会

「教区声明作法講習会に参加して」

第六組光運寺 南 さやか

去る、九月三十日・十月一日に教区声明作法講習会、引き続き十月一日・二日に「御伝鈔」拝読講習会が高田別院にて、本廟部堂衆の松村大栄先生のご指導の下、開催された。

前半の教区声明作法講習会は、二〇一八年に厳修される高田教区御遠忌で依用する、御和讃の読み方



を一つひとつ丁寧に指導していただき、改めて教区の御遠忌では「私達」がしっかりと勤めをし、荘厳するんだ、という自覚と責任感の重さを感じた。

後半の「御伝鈔」拝読講習会では、高田教区列座を中心に実際の流れを確認しながら細かい動きを指導していただいた。

左手が先、右手が後、と一見すると混乱しそうな所作も「あるべくしてその所作になっていること」や、一つ所作を終えてまた、次の所作という動作の区切り、メリハリをつける事が、見ている人に「所作をしている」と魅せる難しさも教えていただいた。貴重で充実した講習会だった。次もまた是非参加したい。

伝道研修会

「伝道研修会を通して」

第六組最賢寺 金子 光洋

十二月三、四日の一泊二日で今年度第二回目の伝道研修会が稲田の光明寺で開催された。ここ数回光明寺で開催しているので参加者の顔ぶれも少しずつ変わってきたように思う。

講師は東京の大島義男先生。初日は大経のお勤め、講義を聴聞、輪読（今回から皆我量深先生の『親鸞の仏教史観』、懇親会。二日目は大経をお勤め後、講義を聴聞。

一泊研修が開催されてからテーマはひたすら「浄土」。今回は「唯南無阿弥陀仏」から講義が始まった。



念仏といっても自己免許の念仏になつていてのではないかという指摘をされ、御正忌の御文を通し善導の六字釈「言南無者 即是歸命 亦是発願回向之義 言阿弥陀仏者 即是其行」（『御文』・真宗聖典八二六頁）を紹介された。真宗はどこまでも相伝されてきた六字釈にうなずいてきた歴史なんだと。『正信偈』の依釈も六字釈の伝統。自己免許の念仏をする者が、六字釈の伝統へのうなずきを願われていると仰っていたことが印象深い。

教区御遠忌テーマ「私はどこで生きていくのか」たずねよう真宗の教えにー」というテーマが改めて想い

起こされる講義だった。やはりたずねるといことは、問いに立たされるところからしか始まらない。何を問うのかそれは今回の講義の冒頭で言われた「唯南無阿弥陀仏」しかない。裸の南無阿弥陀仏では分からないが、それを六字釈という形をもって届けられたことの歴史に私自身もうなずいて歩んでいきたい。

男女平等参画ってなあーに

現在、教区教化委員会「高田教区男女平等参画を考える会」の活動について、教区内に少しでも周知してほしいとの願いから、今号より男女平等参画を考えるコーナーを開設します。第一回目は、委員長である舟見氏より原稿をいただきました。

「『男女両性で形づくる

教団』の実現に向けて」

第七組敬覺寺 舟見 玲子

一般社会の流れを受けて、真宗大谷派教団では、平成八年に仏教教団で初めて女性の宗門活動推進に取り組む専門機関として、組織部に女性室を設置し、（平成十七年に解放推進本部に移管）「男女両性で形づく

る教団」の実現に向けて様々な呼びかけや活動をしております。そして本山の方針のもと発足した高田教区「男女平等参画を考える会」では、教区教化委員会の社会教化研修部門に位置付けられ、男女十九名の委員が自主学习会や公開講座、組の研修会開催等々の啓発活動に取り組んでいます。

本年も去る、五月二十四日に京都大学教授、伊藤公雄氏をお招きし、公開講座「らしさ」からの解放」についてお話をして戴きました。「男らしさ、女らしさ」に縛られず、一人ひとりがそれぞれの個、立場を認め合うところに、共に解放され、安心できる関係が築かれていくことを九十名の皆様方と共に学ぶことが出来ました。

私達は、日常、殆んど意識せずに「男らしく、女らしく」だとか、「男のくせに、女のくせに」という凝り固まった思いにとらわれていることがよくあります。良い悪いではなく、観念として理解しているつもりではない、何気ない態度、行動に表れてしまうことが多々あると思うのです。

女性室広報誌「メンズあいあう七号」にもありますように、多くの教

区で様々な研修が開催されており、男女平等参画についての大切な示唆も載っております。

今後、機構、制度、教学、教化、儀式、声明などの現状を見直し、教区、組、各寺院に男女が共に参画し、同朋として歩んでいけることを切に念じますと共に、単に性別だけの問題ではなく、むしろ性別を超えて尊敬し合える関係に立てることもあわせて願っております。

教区の皆様には、趣旨を御理解戴き、ご協力を賜りますようお願いいたします。

センター活動報告

去る、十月二日から二泊三日の日程で、第五回センタートレッキング「紅葉の北八ヶ岳トレッキングと蓼科温泉」が開催されました。

北は山形県、西は福岡県からスタッフを合わせて二十三名の皆様からご参加をいただき、北横岳を目指しました。

今回、福岡県からご参加いただいた、深野木さん親子に原稿をお寄せいただきました。深野木健さんは、

センタートレッキングに参加されてから間もなく、ニュージーランドに滞在中とのことでした。

ホームステイ先のファンガレイと福岡のお母さんとのメールによる往復書簡を原稿としてお寄せいただきました。

「手紙」

福岡県 深野木千津子 健

お元気ですか？ あの日は厚い雲に覆われた北横岳でしたが、登山道では岩や植物が色鮮やかに輝やいていましたね。山の先輩に教わった、あの美しい木の名前を憶



えていますか？ 忘れられないのは、お宿でのガールズ・トーク。若かりし頃のお見合話…。時間を忘れておしゃべりした思い出のページ。年代や生きる所が違う人と出会う事の妙を今、ニュージーランドでも実感している事でしよう。どうぞご縁を大切に。無事を祈ります。 母より

今、僕はファンガレイの丘の頂上にある家の庭から、広大な牧草地と点在する大木に囲まれて、淡いエメラルドグリーンの海に浮かぶ半島の街並と、その向こうに連なる山々を望みながら長野での出来事を思い返しています。最年少の僕を人生の先輩方は温かく迎え入れて下さいました。皆様の体力に驚きながら登った北横岳、コマツガとシラビツの違いもバッチリです。旅の直前に先輩方の明るさ、力強さを感じ取れた僕は、苦労は尽きませんが、こちらでも堂々と楽しく過ごせています。また写真を送ります。お元気でみんなによろしく！

「全国准堂衆会主催 東日本大震災追弔法要 に参加して」

第六組善念寺 滋野 憲史

九月十〜十二日の二泊三日、全国准堂衆会による東日本大震災追弔法要並びに南三陸町現地視察が催された。

十一日に仙台市内の東漸寺様を会所に東日本大震災追弔法要が行われ、二本松の真行寺・佐々木道範さんよりご法話をいただくなか、「もともと早く来て欲しかった!」「こんな私でも、ジーンズ・Tシャツ姿であっても、読経を頼まれた。坊主に求められることはものすごく多いと思う!」「この法要をきっかけに全国の方々に様々なことを発信し、忘れないでいただきたいし、協力して欲しい!」との再三再四の叫びに胸が締め付けられ、とても心が痛かった…。

全国から百五十人もの准堂衆がこの日のために駆け付け、堂内に響く声量は圧巻だったし、法要をお勤めされている姿と、その姿を通して御本尊に手を合わせ、御焼香されている東漸寺様のご門徒の方々が居られることがとても意味深い。しかし

法要を勤めたことだけに満足せず、佐々木さんのご法話に私自身、揺さぶられ続け、この言葉に生きたいと思わずにはおれない…。

翌十二日には全国准堂衆会員有志による、南三陸町現地視察が行われ、現地復興支援センターの清谷さん、現地ガイドの後藤一磨さんより防災庁舎や避難場所であった近隣の小学校等を案内いただいた。

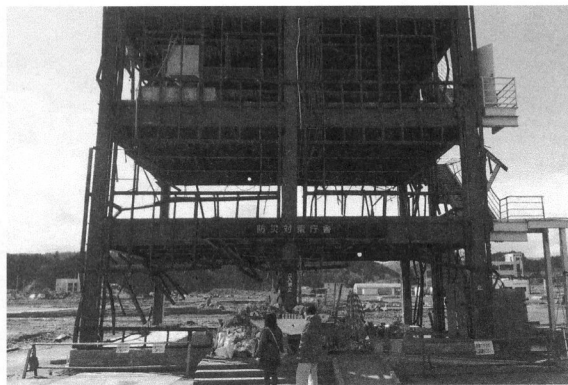
偶々ではあるが、二〇一一年の五月、高田教区有志会に参加した折り、また二〇一二年の三月、陸前高田・本稱寺様における『勿忘の鐘』に仏教青年会で協力させていただいた折り、そして今回と、三度目の訪問となった南三陸町防災庁舎。

この三枚の写真を掲載させていただく。



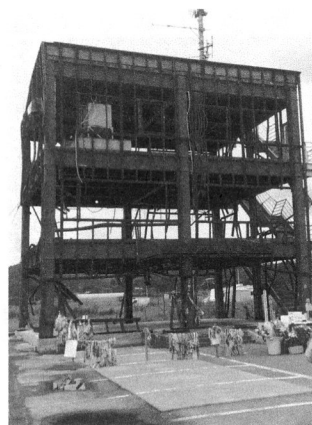
2011年5月南三陸町防災庁舎

二〇一一年の五月は、瓦礫（震災廃棄物）が辺りに散乱し、鉄骨がむき出しとなった建物に養殖されていたホタテやカキ・昆布等がぶら下がり、津波の生々しさを感じた。



2012年3月

様に瓦礫は見当たらないが、伸び放題となった雑草と、防災庁舎を含む漁港周辺地域（居住区間外と定められた港周辺）の整地が手付かずの状態で、進み難い復旧にもどかしさを感じた。



2013年9月

二〇一二年の三月は、一刻も早い瓦礫撤去を願われた結果、辺りには瓦礫が見当たらないし、仮設のガソリンスタンドが設けられ、大型バス二台を改造した移動型ラーメン屋が営業に訪れていた。

二〇一三年の九月である今回、近くにはサンサン市場と名づけられた仮設の市場が立ち並び、コミュニティもできていた。辺りには昨年同

その防災庁舎の前で、ガイドの後藤さんは「お参りに来ていただくのはとても有難い。有難いが、見たことを伝えて欲しい。忘れないで欲しい。また、亡くられた方も大勢いるが、ここに生きている人がいることも見失わないでいただきたい!」とのお声に胸が締め付けられた。

東日本大震災での死亡者数は一万八千人を超え、行方不明者数は三千人を超えている。さらには震災関連死としては千四百人以上と言われている。

当然の事ながら、このお一人おひとりには名前が有り、性格が有り、

声があり、家族があり、生活があった。そんな故人を偲び、一人ひとり向き合うことが求められているのだと、ご法話の佐々木さんやガイドの後藤さんのメッセージだと私はいただいた。

手を合わせることから始まり、手を取り合うことを始めさせていただくことで、人と人との間を生きる人間が回復され、人間に成って往くのではないだろうか？

日常の忙しさにかまけて忘れてしまふ毎日になりながら、この高田教区には幸いにも『震災支援有志会・震災支援機関紙SAIKO・キッズふくしまin高田・週末保養』などがあり、手を取り合うきつかけが開かれている。法要・現地視察を不遇の死として終わらせてはならない。様々に、色々なカタチで思い出し、忘れたら尋ねる歩みが続けていききたいと、改めて考えさせられた。



キッズふくしま サマーキャンプ

七月三十一日から八月五日にかけて、五泊六日の日程で、「キッズふくしま サマーキャンプインたかだ」2013」が開催された。東日本大震災と原発事故から三年目、高田教区における「キッズ」の開催は、春夏通算五回目となる。

今回は、福島市・いわき市・郡山市・会津若松市から、小学校一年生から中学校二年生まで男子二十四名・女子十四名の総勢三十八名が参加した。参加者の中には、キッズ一回目から参加してくれているリピーターも多くいた。



海で大はしゃぎ

前半二泊は池の平青少年センターで過ごし、後半三泊は教区内の寺院と新井別院の合計十一カ所のホームステイ先で時間を過ごした。

(編集委員 藤島)



ホームステイ先での食事



気持ちいいな

おめでとつづいませう

第1組 光徳寺御遠忌法要



第3組 西性寺御遠忌法要



高田教区震災支援有志会

高田教区震災支援有志会事務局

豊島 信

毎月お邪魔している石巻市寄磯浜地区。先回十一月二十日に行ったときに初めてホタテの稚貝に穴を開け、ピンを通してロープにつるす作業を手伝った。仕入れ先の北海道から稚貝のホタテを載せたトラックが到着したのは午前三時。生きたホタ



皆で作業

テの稚貝が北海道の天候次第で運ばれてくるので、仕入れる側はそれに合わせなければならぬ。テントの中で応援の仲間と作業を行い、すぐに海へと運ぶ。この時期に海に吊る

し、収穫するのは来年の六月あたりから。

この地区はほとんどの世帯が漁業を生業としているが、漁の種類は様々だ。ホタテの養殖、ホヤの養殖、イカ漁、タコ、アワビ、北海道から千葉沖まで南下するサンマ漁への出稼ぎ。複数掛け持ちしている方やその他に水産加工の工場など。そしてそれぞれが収穫したものを親戚や付き合いの中でお互い分け合っ



ホタテの稚貝

る。互いに持ちつ持たれつで助け合い、協力し合いながら均衡を保っていて、集落全体が目に見えない大きな輪に囲まれているように見える。

今回のホタテの作業もそうだ。生きているうちに素早く穴を開けてピンを通して海に吊るさねばならないため、一人でも多くの人が出ている。深夜に集まってそのまま出勤する方もおられた。



東北別院にて

『真宗』二〇一三年七月号 amrita (教研だより) に紹介されていた鷺田清一氏(大谷大学教授)のことはハッとさせられた。

自立とは、independence (依

存しないこと) というよりむしろ、interdependence (相互に依存すること) です。いざというときに相互依存・相互支援のネットワークを使えることが自立の意味だと思います。

自立というと人の手を借りないでなんでも自分一人で行うことを自立立と思っていた。他人に迷惑をかけたくない、世話になりたくないとい

うのは私も常日頃思っていることだ。しかし他の人の手を借りないで生きていこうとするのは自立ではなく孤立に過ぎないのではないかと私が思っていたようなことを自立とするならば、それは自分にとって都合のよいものとし「取引」をせず、他人の窮地を自業自得と見放し、自分には関係ないこととして冷たい眼差しで他人を裁いていくことになっていきはしないか。

福島県二本松市真行寺住職佐々木道範氏は震災直後から「たすけてください」といって全国を駆け回った。現代は「たすけてください」が言えない社会だ。決して許されない。「責任」をとらされることに怯え、差し障りなく付き合い、深入りしないよう他との関係を増々希薄にしていく現代。

震災後も変わらず相互に関係し合いながら生きる寄磯浜の方々、たすけてくださいといって人と人が直接対峙したところから築く関係を大事にしている佐々木氏など被災地から私達が学ばねばならないことは、鷺田氏のいう相互依存・相互支援の関係を私自身が築けているのか、自らの他との関係性を一から問い直すことではないだろうか。

愚僧のつづき

〈声明(おつとめ)編③〉

今回から中国声明に入ってゆきま
す。仏教がインドから中国に伝わ
り、声明もまた中国の風土に合った
ものが作られました。ただ、仏教が
すぐに受け入れられた訳ではなかつ
たのです。当初は、中国に古くから
あつた道教の神様と同様に、病気が
治り長寿となる様にといい願いを込
めて仏像を拝み、声明が唱えられて
いたといひます。でも、それは違
うんだと立ち上がったのが七高僧の
お一人、曇鸞大師様でした。曇鸞様
は、広く大乘経典を研究されていた
のですが、ある時に長寿の必要を感
じて仙人の所へ行き、秘伝の書を授
かります。その帰り道、当時インド
の経典を中国語に翻訳する第一人者
でありました菩提流支様に言われま
す。「曇鸞よ、五十年百年長生きし
て何になる。それよりも永遠の浄土
を生きる者となれ」と。それにより
曇鸞様は仙經を焼き捨てて浄土教に
帰し、そこから他力廻向という事を
頂かれます。そして、声明もまた私
の行なう行ではなく他力の行であ
り、仏様のお用きと頂く様になる訳

です。

金子大樂師のお言葉に、「浄土の
音楽を聞けば、この世の悩みも救わ
れるというものであれかし、と願
う。」というものがあり、『仏説無量
寿経』様の中には、仏の八音と呼ば
れるものがあります。

- ①清(清らかで濁りのない音)
 - ②揚(澄んでいてどこまでも聞こえ
る音)
 - ③哀(悲しみを内に含んだ深みのあ
る音)
 - ④亮(悲しみに沈むことのない朗ら
かな音)
 - ⑤微(言葉では表せない尊い感じの
する音)
 - ⑥妙(静かに落ち着きを与える音)
 - ⑦和(柔らかで温かな感じの音)
 - ⑧雅(整っていて華がある音)
- 当時の仏弟子達は、こうした仏の
八音にかなう声を訓練し、それを通
して仏様の声に耳を傾け、浄土を求
めてゆかれた事であります。
- ちなみに、古来より声明に適さな
い声有四つ伝えられています。
- ①亡国的な声(哀傷愁嘆する声)
 - ②人法不和合の声(調和しない、音
痴、調子外れの声)
 - ③短命病患の声(弱々しく、息も短
い声)

④天魔障害の声(腹を立て、どなり
ちらす様な声)

ただ、これらの声が単にダメだと
いう事ではないのです。大事な事は、
声明とは、仏様の声を聞きたいと願
う人の行為であり、仏様の声をお取
り次ぎする行為である訳です。そし
て、それを忘れない所に、他力の声
明が聞こえてくる事であります。『仏
様を忘れた人の声明は冷たく、仏様
を憶う人の声明は温かい』

(ペンネーム 維摩教信)



「七高僧ものがたり」(東本願寺出版部)より

本師曇鸞梁天子
 常向鸞處菩薩禮
 三藏流支授淨教
 焚燒仙經歸樂邦

教務所からのお知らせ

着任挨拶

高田教務所書記兼主計事務取扱

萩野 顕



このたび、八月一日付で「高田
教務所書記兼主計事務取扱」を拝
命いたしました萩野顕(はぎのあ
きら)と申します。

出身は九州・福岡県、久留米教
区浮羽東組、異動前は本山の本願
部(参拝接待所)に勤務しており
ました。

これまでは、本山における御門
徒の方や一般の方の窓口という立
場の一人として、ご参拝されるす
べての方を聖人の御客人としてお
迎えするということを基本姿勢と
して職務をつとめてまいりました。

今回、初めて教務所で仕事をす
ることになりましたが、高田教区
という宗祖親鸞聖人ゆかりの地で、
また教区御遠忌へ向けての募財が



転任挨拶

仙台教務所主事 藤 藤 藤 信 磨

さて、既にご承知のとおり、本

始まったこの大事な時期に宗務役員としてのご縁をいただいたことに、非常にありがたく思うと同時に身の引き締まる思いも感じております。

私自身、職歴もまだ浅く、特に教区における宗務については全く無知であるため、教区の皆様方にはご迷惑をおかけすること多々あるかとは思いますが、いただいたご縁を大切に精一杯力を尽くしてまいりますので、皆様のご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

年八月一日付をもちまして仙台教務所主事を拝命いたし、既に四ヵ月が過ぎようとしております。

高田教務所には五年間在籍させていただき、赴任当時の役職は主事であり、着任三ヵ月後に主計の発令がありました。主計職は初めてでありましたので、教区の皆様方にはご迷惑をおかけしたこともあったことと存じますが、皆様方のご温情とご教示を賜りつつ、主計として四年九ヵ月務めさせていただきました。

振り返ると、本山御遠忌、教区御遠忌に向けた業務、東日本大震災に伴う一時保養の取り組み、除雪作業など、様々なことが思い出されます。教区御遠忌を共に迎

えできないことは残念であります。が、皆様と過ごした日々、共に仕事をさせていただきたく中で、ご指導いただいたこと、ご糧に、仙台教区でも教区の発展、震災復興支援に向けた取り組みのため、微力ながら尽くしてまいる所存であります。

これまでご厚誼を賜りましたことに感謝し、今後ともご指導とご交誼のほど心からお願い申しあげます。

『響流』編集委員会からの依頼原稿、並びに、お寄せいただいた原稿については、漢字の使い方・言いまわし等、できる限り執筆者の表現を尊重して掲載させていただいております。

完納御礼

二〇一三年度宗派経常費(相続講金・同朋会員志)を御進納いただき誠にありがとうございます。

ここに、完納いただきました御寺院名を御披露し、御礼にかえさせていただきます。

- | | | | | |
|-----|------|-----|-----|-----|
| 第1組 | 大雲寺 | 雲晴寺 | 長願寺 | 光徳寺 |
| | 本立寺 | 寶光寺 | 清雲寺 | 圓照寺 |
| | 常誓寺 | 西性寺 | 徳正寺 | 正覺寺 |
| | 光照寺 | 勝蓮寺 | 廣傳寺 | 西光寺 |
| 專徳寺 | | | | |
| 第2組 | 善正寺 | 來遊寺 | 乘雲寺 | 法圓寺 |
| | 東淨法寺 | 唯心寺 | 思敬寺 | |
| | 寶善寺 | 西福寺 | 興順寺 | 大蓮寺 |
| | 常圓寺 | 陽嚴寺 | 萬徳寺 | 教念寺 |
| 明通寺 | 通託寺 | | | |
| 第3組 | 西性寺 | 正願寺 | 明了寺 | 禮信寺 |
| | 明福寺 | 大泉寺 | 光榮寺 | 安專寺 |
| | 應満寺 | 正光寺 | 淨福寺 | 淨念寺 |
| 第4組 | 西勝寺 | 宗專寺 | 養性寺 | 隨念寺 |
| | 持專寺 | 淨善寺 | 皆順寺 | 敬音寺 |
| | 願淨寺 | | | |
| 第5組 | 流泉寺 | 光源寺 | 林正寺 | 信光寺 |
| | 忍西寺 | 寶善寺 | 蓮光寺 | 智願寺 |

第6組

照行寺 勝念寺 福成寺 敬覺寺
 等正寺 淨光寺 教專寺 金光寺
 照行寺 善念寺 雲妙寺 安養寺
 玉梅寺 照蓮寺 蓮受寺 養福寺
 西安寺 淨蓮寺 明善寺 常榮寺
 樹德寺 常敬寺 了源寺 本淨寺
 本誓寺 長樂寺 真宗寺 法林寺
 淨國寺 安傳寺 長命寺 最尊寺
 淨照寺 林西寺 長徳寺 光運寺
 得願寺 願重寺 光照寺 唯願寺
 最賢寺 善福寺 佛現寺 願清寺
 佛性寺 願通寺

第11組

覺願寺 延壽寺 阿彌陀寺
 稱名寺 大嚴寺 淨音寺 蓮休寺
 西方寺 本覺坊 願立寺 源長寺
 淨琳寺 臨行寺 西養寺 向源寺
 明善寺 慈圓寺

●おめでとうございます

◎住職任命

第3組 光榮寺 老野生一義
 第6組 福成寺 鎮西 良昭
 第6組 安養寺 稻垣 道雄
 第7組 善性寺 堀川 文章
 第8組 明岸寺 法隆 光昭
 第12組 横超寺 堀井 光英

◎教師補任

第8組 勝名寺 龍山 智史

◎得度

第1組 光徳寺 水嶋 千佳
 第1組 光徳寺 水嶋 大智
 第3組 西性寺 楠田 優子
 第3組 西性寺 楠田 琉樹
 第3組 光榮寺 老野生一真
 第3組 光榮寺 老野生航平
 第6組 善念寺 滋野 智尋
 第6組 佛現寺 齋藤 慧
 第12組 善立寺 山越 浩子
 第12組 善立寺 山越 智英
 第13組 養法寺 松岡 浩子
 第13組 養法寺 松岡 睦貴

◆こもれび◆

二〇一五年に北陸新幹線が開業します。金沢から東京間が約二時間三十分で行けるそうです。上越妙高駅、糸魚川駅と、巨大な駅舎を見る度に計画の壮大さが、この目に伝わってきます。

開業にあたり、それまで見慣れた何本かの特急電車が廃止されると聞きました。利用者の一人として、寂しくもあり、少し不便になるのでは、と心配しています。しかし期日が決まれば、待ったなしです。関係者の方々は、無事にその日が迎えられるよう、時間に追われる日々ではないかと、勝手に余計な心配をしていますが。

そして二〇一八年には、高田教区宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌をお迎えします。様々な記念事業、行事が計画されています。

教区の御遠忌まで五年を切つていきます。その日が迫りつつある中、単にイベントとしてではなく、そしてただ指折り待つのではなく、御遠忌を迎えるにあたってのそれまでの自分の姿、そしてこれからの自分を問うていかねば、と思ひ感じていきます。

私自身、行事の前に、様々な思いを巡らせています。(簡石)

第7組

皆遵寺 入善寺 妙行寺 正教寺
 願樂寺 照光寺 聞稱寺 良明寺
 康源寺 道因寺 願生寺 誓願寺
 善性寺 慶樂寺 宗顯寺 性顯寺
 專了寺 圓常寺 西谷寺 靈山寺
 福藏寺 願勝寺 敬覺寺 圓了寺
 唯念寺 正行寺 長徳寺 明道寺
 勝福寺 得法寺 淨善寺 光源寺
 廣建寺 明樂寺 覺願寺 慈雲寺
 閩稱寺 淨嚴寺 正善寺 圓光寺
 西蓮寺 淨善寺 福因寺 西蓮寺
 教蓮寺 正念寺 法泉寺 本龍寺
 勝樂寺 本覺寺 妙土寺

第13組

本敬寺 龍覺寺 信光寺 淨泉寺
 願專寺 龍覺寺 最尊寺 淨嚴寺
 明通寺 松橋寺 徳專寺 雙善寺
 光徳寺 養性寺 照專寺 西念寺
 正法寺 養法寺 惠光寺 善照寺
 正行寺 龍光寺 了僧寺 光遍寺
 稱念寺 船入寺 願念寺

(二〇一三年七月一日〜十二月八日)
 以上二百四十八カ寺

●おくやみ申しあげます

ご生前のご功勞を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

第6組 福成寺住職 鎮西 月昭